

「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」 策定後の取組について

2018年6月に、「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画（以下、再編計画）」を策定しました。

計画策定後の取組としては、シンポジウムの開催や広報まちだ等による周知を行いました。また、公共施設の再編を身近なものとして捉えていただくため、まちカフェや市民センター祭りなど人が集まる場所へ赴き、クイズやアンケートなど取り組みやすい方法で、きっかけ作りを行いました。

これからも、公共施設の現状や再編の意義、必要性について周知する機会を増やし、より多くの方々に興味、関心を持っていただくとともに、みんなで考える場を設け、市民の皆様や事業者の皆様との「対話」を十分に行いながら、「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現を目指します。

1. 再編計画策定後の主な取組み

2018年

- 6月21日 行政報告①：再編計画の策定について
- 9月10日 行政報告②：再編計画策定後の経過について



- 9月30日 町田市公共施設マネジメントシンポジウム*資料1
- 10月1日 広報まちだ①：「ぷらっと Deli (デリ)」をはじめます
- 11月15日 広報まちだ②：「まちカフェ！」に出展します
- 12月2日 知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち①in まちカフェ！*資料2
- 12月15日 広報まちだ③：「公共施設再編に向けた取り組みが本格始動！」
- 12月中旬～1月中旬 市政モニター調査

2019年

- 1月10日・29日 知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち②
in 学校法人大原学園*資料3
- 1月14日 成人式二十祭まちだ：情報紙ぷらっと配布
- 2月15日 広報まちだ④：「みんなで考える場」にお越しく下さい
- 3月2日 知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち③in 小山市民センター

2. 再編計画アンケート集計結果概要版*資料4



町田市公共施設 マネジメントシンポジウム

～みんなで描こうより良いかたち～

町田市生涯学習センター 7Fホール 参加者数

[program]

part1 計画紹介

part2 基調講演

part3 パネルディスカッション

91名

part1 計画紹介「みんなで描こうより良いかたち 町田市公共施設再編計画」

町田市 政策経営部企画政策課 (公共施設再編担当課長)

みんなで取り組む公共施設の再編



かつて一斉に建設した学校を中心に公共施設の老朽化が進んでいる。しかし、すべての建物を維持するには、今の1.7倍の費用がかかってしまう。今後は、維持する建物と維持しない建物に整理し、維持する建物は複合化をしていくといった再編を行っていく。

公共施設の再編の進め方として、まずは、公共施設の現状や再編の意義を知っていただくことが大事。本日のシンポジウムはまさに知っていただく機会。次に、今後みんなで考える場を設け、皆さんと一緒に考えていく。

将来を見据えて、次の世代にも引き継げる、「公共施設・公共空間のより良いかたち」を、対話を繰り返しながら、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。ご理解ご協力のもと、よろしくお願いしたい。

part2 基調講演「公共施設等を取り巻く環境と今求められる生き方」

寺沢弘樹氏 (特定非営利活動法人日本PFI・PPP協会)

公共施設の問題はお金の問題

公共施設が抱えている問題はお金の問題である。言い換えば、お金があれば解決できることがほとんど。しかし、お金がないことで施設の維持管理を怠ってはいけない。笹子トンネルの崩落事故、ふじみ野市プールの児童死亡事故、大阪ブロック塀崩落による女児死亡事故。これらはただの事故だったのだろうか？インフラの維持管理が適正に行われていたら防げた事故だったのではないか。施設を管理する者は、お金がないから仕方ない、誰かが助けてくれるのではなく、自分事として受け止めなければならぬ。公共施設の老朽化に対する対応は今すぐ行うべきである。

経営能力に乏しい行政

行政はビジネスベースで事業を組み立てていくことが苦手である。青森県の再開発事業で生まれた商業施設はインシヤルと国の補助金をかき集めて建設され、華々しくオープンしたものの、経営が行き詰まり、最終的には市役所の一部がテナントとして入らざるを得なくなった。振り返れば、当初から採算の合う事業じゃなかったという。中心市街地活性で作られたものが一転大きな負債となってしまった。問題はこれは一例というわけではなく、全国にいくつも存在しているということである。

生きていくための術

暗い話が続いたが、これらの課題を乗り越えていくためには今までの考え方やシキタリのままでは限界がある。

発想の転換が必要だ。今日はそんな、発想を転換し、民間と手を組むことで課題を克服した事例を、私が流山市職員だった時の話も交えていくつか紹介していきたい。

図書館に生まれる新たな価値

図書館がテーマとなる事例はたくさん生まれている。有名なものは佐賀県武雄市のTSUTAYA図書館。選書の問題等で一部から批判を浴びたが、多くの利用者の満足度は高い。なにより寂れかけていた地域がこれを契機に賑わうようになった。周辺にマンションも建設され地価も高騰しているという。愛知県小牧市のTSUTAYA図書館は反対が強く白紙となったが、100%悪だと片づけてしまうのはもったいない。



千葉県八千代市の図書館は0～2歳の子育てママのサードプレイスにと、子育て支援機能を付加。簡単そうだが異なる部局の同居は、縦割りの行政には簡単ではない。青森県つがる市はイオンモールに図書館を入れた。イオンの送迎バスを活用できるのだから、イオンは地域貢献していると言える。他にも寄贈の本で運営するブックカフェや街角に本棚を設置する事例など、図書館とは言えないが、図書館機能を提供する新たなサービスが生れている。行政の持ち物だけで考えてはいけない。そもそも、税金を使う事業なのか？民間に任せれば良い事業なのか？ということも今一度考える必要があるだろう。

民間の力を引き出すコツ

大阪府大東市は庁舎建設案を民間事業者に求めた。既存地建替え案がセオリーと思われる中、選んだのは手狭でもショッピングセンター併設案。庁用車の駐車スペースをショッピングセンターに求めたことや、テナントとして事務所を入れることは採算上、最も理に適っていた。大阪城公園は園内施設の指定管理以外はその他何をしても良いという条件を付して運営を民間にゆだねた。事業者はお堀を周る船の運航やバーベキュー場の運営など様々な手を打ち利益を追求した。大阪市には毎年必ず2億以上の歳入が入るという仕掛けだ。流山市にいた時に取り組んだのが体育館の指定管理。公募条件を作る際に民間に意見を聞くサウンディングを実施した。民間が手を組める条件を整えた結果、あの東京ドームが名乗りを上げてくれた。要は民間側の決裁が通る内容だったのだ。

建物を建てるのが目的ではない例もある。神戸市の小規模保育所の整備で市が行ったのは、土地を提供するオーナーと土地を借りて保育所を運営する事業者をマッチングさせるだけ。これらには、行政職員が経営感覚を持って民間と対話することが求められる。利益があるなら民間は必ず向き合ってくれるものである。

「許容」 + 「特化」 = 「ユルクトンガル」

お金がないなら、今までと違った手段で調達するしかないし、難しいならそのノウハウがある相手と手を組めばいい。インフラは稼げないという考えは捨てるべき。尾道市の港倉庫をホテルに生まれかえらせた事例やマンホール蓋とアニメのコラボによるクラウドファンディングを実施した沼津市の事例も、面白いことを許容して行政が苦手であるテーマの特化によって生まれた。人は面白いことにはお金と時間をかけるもの。行政の古臭い考え方を捨てること、自分事として生きる道を探していくことその実践が今求められている。

寺沢弘樹氏

(特定非営利活動法人日本PFI・PPP協会)

元山南市職員。公務員時代にはデザインビルド型小規模バルクESCO、包括施設管理業務委託、事業者提案制度などを実践。公務員を退職後、2016年度からは協会業務部長として、実践的な自治体の公共施設マネジメントの支援や民間事業者への協力など、多様な活動を展開している。
一級建築士、CFMJ認定ファシリティマネージャー



part3 パネルディスカッション「公共施設再編の意義 -みんなで描くより良いかたち-」

寺沢弘樹氏 × 市川宏雄氏 × 小林祐士氏 × 石阪市長

(明治大学名誉教授) (町田青年会議所直前理事長)

theme1 学校の再編に向けて

市川：床面積で半分を占める学校をどう考えていくべきか？民間を絡めることが難しい施設なのか？

寺沢：統廃合だけが再編ではない。民間のプールを活用して授業を行うというものや、民設民営の体育館という事例も出てきている。場として体育ができればいいという考え方である。

市川：学校の複合化はどう感じるか？

小林：良いと思う。例えば、スーパーなど人の生活動線にあるものと組み合わせて考えられるのではないか。スーパーの備蓄を防災備蓄として活用するといったことも考えられる。

市川：反対意見みたいなものはどう乗り越えていく？

市長：例えば、統廃合の件で考えれば、学校が遠くなる地域にスクールバスを走らせるなど、現状よりもより良い環境に変えていくことが必要ではないか。防犯上や交通安全上のメリットがある。



(写真：左から小林氏、市川氏、寺沢氏、石阪市長)

theme2 公共施設マネジメントの円滑な推進とは

市川：行政の進め方に納得できない市民もいるのでは？

寺沢：透明性が重要。東京ドームの例もそうだが、進め方をきちんと説明するためにも広く事業提案を募集していた。今までのやり方には不透明な部分が多い。

市川：多くの市民は今どのような感覚を持っていると思うか？

小林：関心はなかったが、状況をきちんと聞くと再編の必要性を感じるといったところだと思う。危機感をみんなまで共有していかないといけないと感じる。

市川：行政内部はどうなっているのか？

市長：必要に応じてプロジェクトチームを作っていくなど、庁内で連携していこうという風土になりつつある。

市川：市民以前に行政の中で共通理解を持つことが大事である。

theme3 より良いかたちを描くための町田市の可能性

市川：今後、どのような展開が期待されるか？

寺沢：大手だけでなく町の小さな商店などにも目を向けてほしい。そこでは小さいが地域と密着した強いお金の回りが生れる。

小林：「関心がない」が一番の問題。身近なところで話題にしていき、動きに繋がればいいのでは。

市長：「何もしない」では街が縮小してしまう。公共サービス改革と未来への投資の両輪で進める必要がある。公共サービスの改革に施設マネジメントを据えていく大事さを改めて実感した。

寺沢：その町としての生き方を決めて、曖昧な言葉を使わずに行政の本気を示して行ってほしい。



information

「ぶらっとDeli」について

今年6月に策定した公共施設再編計画の推進にあたっては、公共施設の現状や再編について、できるだけ多くの方々に知っていただき、興味・関心を持っていただくことが重要です。そこで「ぶらっとDeli(デリ)」と名付けた活動を行っていきます。この活動は、市民のみなさんが集まる各種説明会やイベントなどいろいろな場面で、1~2分程度公共施設の再編について宣伝する活動です。まだまだ認知度の低い「公共施設の再編」この活動を通じて一人でも多くの方に知っていただくことを目指しています。



「まちカフェ！」に出展します

12月2日(日)に市庁舎で開催するまちカフェ！に「知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち」を出展いたします。大人からお子様まで楽しめる企画を用意しております。公共施設について、やさしく、たのしく、わかりやすく紹介しますので、是非お越しください。

お問い合わせ

政策経営部 企画政策課 電話：042-724-2103

参加
無料

知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち in まちカフェ！

～開催報告～

2018年12月2日（日）第12回市民協働フェスティバル「まちカフェ！」で、再編に向けた取り組み“みんなで考える場”を開催しました。親子で楽しみながら、町田市の公共施設再編の取り組みについて知っていただく機会となりました。当日は、272名のお客様にご来場いただき、終始大盛況でした。



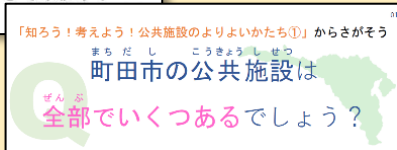
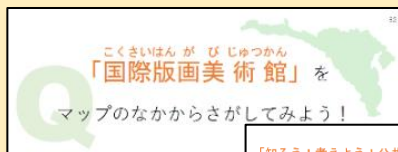
①巨大ジェンガクイズ

▲ブース全体の様子

④アンケート

①巨大ジェンガクイズ

ブースの入り口に巨大なジェンガを設置しました。ジェンガには、町田市の公共施設に関するクイズが印刷されており、パネル展示の中から答えを探し出す仕組みになっています。高く積み上げると2メートルを超え、会場の中でもひととき目立つ存在になりました。



▲全部で36種類のクイズがあります。
どのクイズになるかはジェンガを引いてからのお楽しみ♪



▲おそろおそろ抜いています



▲高く積みあがりました！

②缶バッジづくり

その場で撮った自分の写真や公共施設再編キャラクターのイラストを使って、缶バッジを製作しました。世界にひとつだけのオリジナルの缶バッジが作れることもあって大人気。開始5時間で、合計150個を配布しました。



◀写真ボードの穴から顔を出してパシャリ📷



▲顔写真を機械にはめて缶バッジ製作



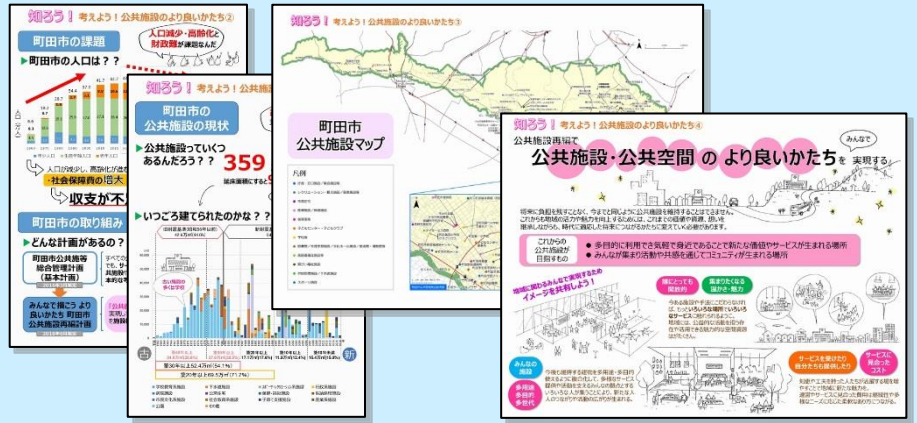
バッグやお洋服につけてくれたよ



▲缶バッジ完成

③ パネル展示

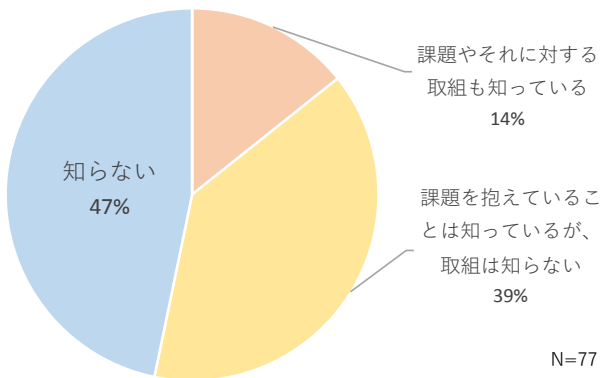
町田市の公共施設の現状や課題、公共施設・公共空間のより良いかたちを実現するためのイメージについて解説したパネルを展示し、アンケートやクイズと連動しながらご覧いただきました。



④ アンケート

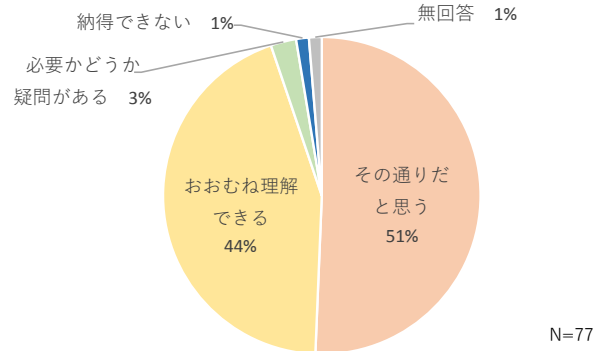
公共施設再編の取り組みについてアンケートを行い、77 名の方から貴重なご意見をいただきました。みなさんの回答をご紹介します。(アンケートから抜粋)

【問】 町田市が所有する公共施設の多くが老朽化してきているという課題に対し、将来を見据えて公共施設を再編していく取組があることを、あなたは知っていましたか。



⇒ 半分以上の方が町田市の公共施設の課題について認識している一方、再編の取組について知っている方の割合は 14%にとどまっています。

【問】 「今後も必要な公共サービスを維持していくためには、1 つの建物に複数の機能を組み合わせることにより、1 か所で多くの目的が達成できるようにしたり、多世代で利用できるサービスや活動の拠点とする必要がある。」ことについて、あなたはどのように感じますか？



⇒ 必要な公共サービスの維持のために 1 つの施設を多機能、多目的、多世代で利用できる拠点にしていく必要性について、9 割を超える方にご理解いただいています。

学校をどんな風に複合化できるかな？

▼ みなさんから様々なアイデアをいただきました！



学校と複合化させるなら・・・

習い事・生涯学習

家に帰らずに通えて便利

子どもも大人も学んで交流できる場に

高齢者福祉施設

多世代交流で色んなことを教わることができる

カフェ おもしろそう

人が集まるので子どもを見守れる



知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち in 学校法人大原学園

～開催報告～

2019年1月10日（木）・29日（火）は第2弾となる、再編に向けた取り組み“みんなで考える場”を学校法人大原学園町田校において開催しました。

59名の生徒さんには、公共施設の再編に向けた課題を踏まえ、市の立場としてどのように取り組んでいくべきか考えていただきました。春から社会人となる生徒さんは、卒業研究を兼ねたカリキュラムとあって終始真剣な眼差し。たくさんの議論が交わされた研究成果は、学生ならではの視点による大変参考になるアイデアでした。



① 講義

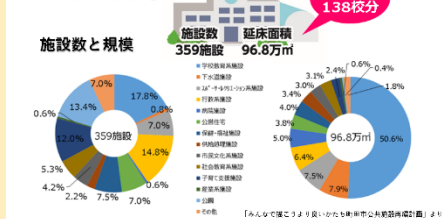
たくさんある公共施設を
データで確認▶

市職員から「公共施設の再編」をテーマに30分ほどお話をしました。はじめに公共施設の再編が必要な背景や再編で目指すことについて説明しました。そのうえで、「施設を減らす」ことの課題や取り組んでいかなければならない対応を確認しました。



▲講義の様子
背筋を伸ばして市職員の話聞いています。

公共施設の概要①



公共施設の再編で目指すこと

1. 施設の数減らす
2. 維持管理にかかるコストを削減する
3. 民間と連携してサービスを提供する
4. 今ある資源をフル活用する

◀計画で定めている
4つの基本方針

施設を減らすうえでの課題

- ① 廃止する公共施設の選定
- ② サービスの維持向上（提供方法の見直し）
- ③ 施設利用者や地域住民の理解・納得を得る

▲みんなが納得できる再編を考える

② 研究課題

講義で説明した施設を減らしていくうえでの課題を踏まえて、具体的な再編プランを考えていただきました。単なる施設削減でなく、サービスが向上し、これまでの施設利用者や地域住民が納得できる再編案が作れるかがポイントです。

自由な発想で
柔軟に考えてみよう



【研究テーマ】

- ① 効果的な公共施設総量の削減方法について
- ② 市民や民間事業者との円滑な取組推進について

日直
榎本 中

③発表



貴重なご提案
ありがとうございました。

いよいよ研究発表当日。生徒さんたちは緊張した様子。全8グループのうち、公共施設の再編をテーマに発表したのは4グループでした。各グループとも町田市資料や他自治体の動向などを細かに調査し臨んでいました。具体的な再編案やその事業効果、新たに生まれる価値など、再編を通した総合的な課題に対する研究発表が行われました。



▲発表の様子

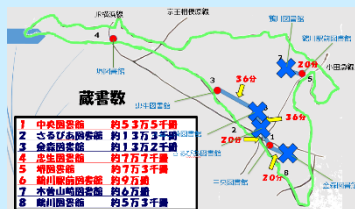
短い時間の中で多くの調査・分析をしていただきました

各グループの発表内容

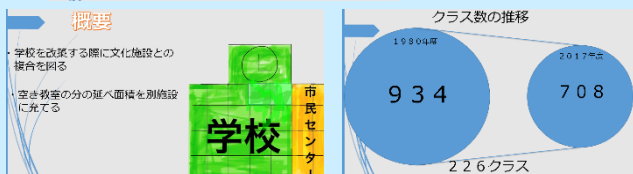
Aグループ

テーマ：公共施設の効果的な削減方法

図書館 8館のうち4館を削減する代わりに、移動図書館を運行してサービスを補う案と学校を改築する際に文化施設を複合させる案が提案されました。



施設の分布や規模などから削減すべき施設を選定しました。

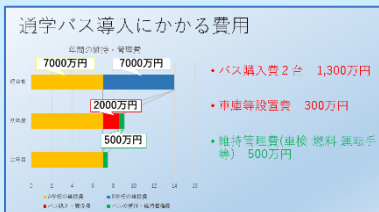


クラス数が減少し、空き教室が増えていることに着目しました。文化施設との複合で教育の質の向上も期待。

Cグループ

テーマ：公共施設の効果的な削減方法

学校の統廃合と施設の複合化に焦点を当てました。統廃合には通学バスを導入し、通学における課題に対応し、廃校となる学校は食品工場として民間活用する案が提案されました。



同じ地域にある図書館を複合施設として改修
例 中央図書館 ← 統合 → 中央図書館
→ 民間へ土地を売却
～理由～
・老朽化 1970年代に建設され、40年以上
・利用率 さるびふ、倉庫ともに年々減少
・距離 1.5km圏内に3つ建っている

成功事例を参考に、図書館3館の複合化とあわせて飲食店などの民間施設を入居させることで新たな利用者の獲得も狙う。

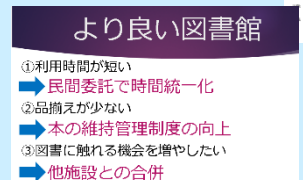
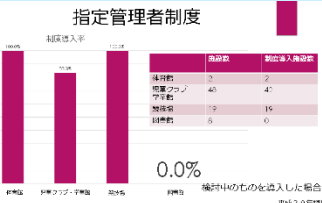
Bグループ

テーマ：市民や事業者との円滑な取組推進

市民と信頼関係を築くこと、より民間と連携していくことを課題に挙げ、相談窓口の強化による信頼獲得と図書館への指定管理者制度の導入が提案されました。



あらゆる相談に対応することで市民からの信頼を得ていく。



指定管理者制度によって民間と連携することで、これまで抱えていた課題を解決できるのではないかと。

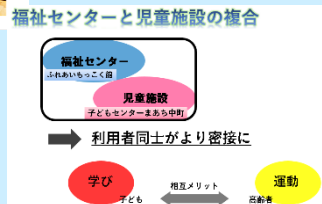
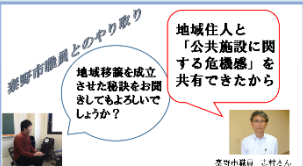
Dグループ

テーマ：公共施設の効果的な削減方法

秦野市職員への聞き取り調査を実施し、再編に向けた地域との関わり方について話を伺いました。また、機能集約による複合化案が提案されました。



学生など今まで歴史に触れることのなかった人に知ってもらいたい。



子どもと高齢者の交流から、学びや運動の機会が生まれる。

再編計画アンケート集計結果 概要版

2018 年度は、アンケートによる意見収集を 5 回実施します。うち、4 回の集計結果です。

アンケート収集実績

日にち	イベント名	参加者	アンケート回答者
① 2018.9.30	町田市公共施設マネジメントシンポジウム	91	38
② 2018.12.2	市民協働フェスティバル まちカフェ!	272	77
③ 2018.12-2019.1.18	市政モニター調査	173	121
④ 2019.1.10・29	学校法人 大原学園演習講義	59	59
⑤ 2019.3.2	小山市民センターまつり		集計中
合計		595	295

アンケートでは、サイレントマジョリティの意見を収集することを目的としているよ。皆はどんな風に考えているのかな。



アンケート回答者の属性

●年齢

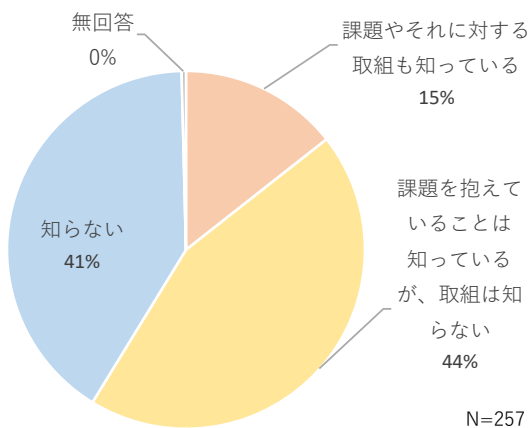
選択肢	回答数	割合
19歳以下	22 (7.5%)	
20～29歳	48 (16.3%)	
30～39歳	54 (18.3%)	
40～49歳	56 (19.0%)	
50～59歳	24 (8.1%)	
60～69歳	29 (9.8%)	
70歳以上	53 (18.0%)	
無回答	9 (3.1%)	
合計	295 (100.0%)	

●地域

選択肢	回答数	割合
町田地域	99 (33.6%)	
鶴川地域	31 (10.5%)	
南地域	43 (14.6%)	
忠生地域	20 (6.8%)	
堺地域	15 (5.1%)	
市外	73 (24.7%)	
無回答	14 (4.7%)	
合計	295 (100.0%)	

問 1 (公共施設の取り組み認知度)

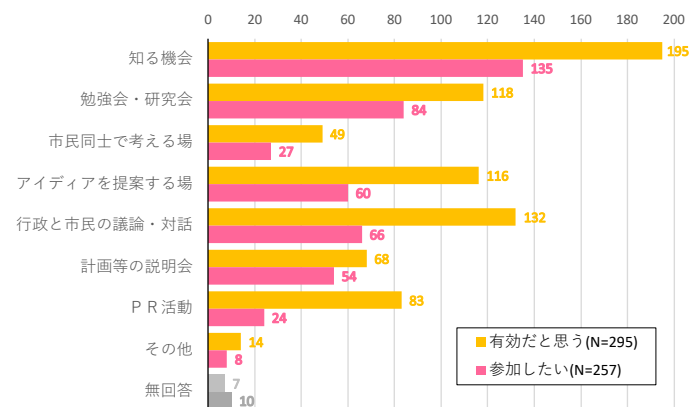
町田市が所有する公共施設の多くが老朽化してきているという課題に対し、将来を見据えて公共施設を再編していく取組があることを、あなたは知っていましたか。(1つだけ)



→約 6 割の方が町田市の公共施設の課題について認識している一方、再編の取組について知っている方の割合は 15%にとどまっています。

問 2 (有効な取り組み、参加したい取り組み)

総論賛成・各論反対に陥ることなく、将来を見据えた「より良いかたち」を実現していくためには、あなたならどのような取組が有効だと考えますか？実際に、あなたが参加したいと思う取組は何ですか？(3つまで)

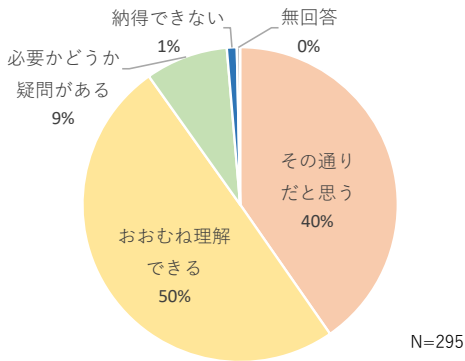


→知る機会の提供が最も有効だと回答されています。また、アイデアを提案する場や行政と市民の議論・対話の場は有効だと回答している方が多い一方、参加したいと答えた方は半分程度にとどまっています。

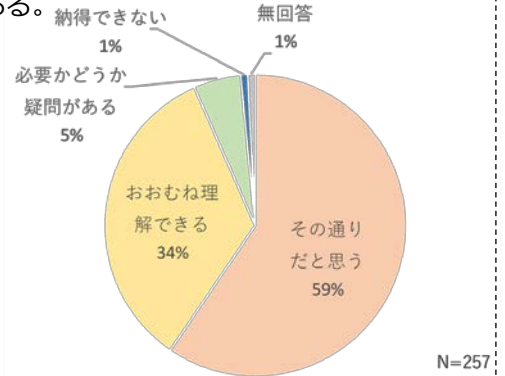
問 3 (公共サービスを今後も維持していくための取り組みに関する見解)

公共施設再編は、将来につながる公共施設・公共空間のより良いかたちをみんなで考えて実現していく機会でもあります。財政状況が厳しさを増す中でも、今後も必要な公共サービスを維持または向上させていくためには、建物の数の削減、様々なサービスを1ヶ所で受けられる複合化、市民や事業者など多様な主体との連携など、これまで以上に様々な工夫をしていく必要があります。このことについて、あなたはどのように感じますか？

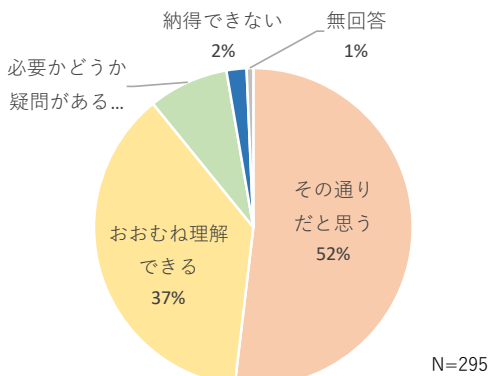
① 今後も必要な公共サービスを維持していくためには、公共施設の総量を減らしていく必要がある。



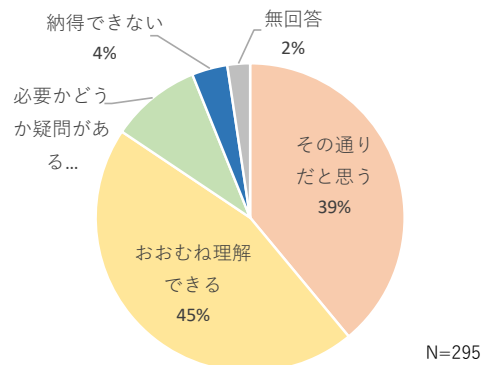
② 今後も必要な公共サービスを維持していくためには、1つの建物に複数の機能を組み合わせることにより、1か所で多くの目的が達成できるようにしたり、多世代で利用できるサービスや活動の拠点とする必要がある。



③ 今後も必要な公共サービスを維持していくためには、サービスの民営化や指定管理※等、民間事業者の力も必要である。



④ 公共サービスを維持していくためには、市民自らが主体となって提供していくことも必要である。



問 4 (学校と組み合わせてみたい機能を考える)

小・中学校は町田市内全地域に点在しています。例えば、セキュリティに配慮しながらも、今後、小・中学校を「地域の人が集まって活動する拠点」としたり、「教育の質を向上」させたりするためには、学校とどのような機能を組み合わせると効果があると思いますか。具体的に記載してください。

